

山形市女性人材育成事業【山形県山形市】

個別事業費	1,948 千円
交付金額	973 千円

地域の実情と課題

令和4年度末の女性の転出超過人数が572人、対前年比26%増と女性の人口流出が顕著となっている。

また、市内事業所における女性管理職の割合は令和元年度12.6%と国で示している30%程度に及ばない状況である。

目的・目標

地元女性が普段課題と感じていることを話し合い、課題解決の方策を実践し、広く情報発信することにより、女性の地元定着とともに女性が活躍できる地域づくりを行い、令和8年度までに女性の転入者と転出者の差をゼロとし、また市内事業所における女性管理職（課長相当職以上）の割合を21%とするための第一歩を踏み出す。

事業の特徴

課題解決に向けた第一歩の活動を、グループワークにより、企画・実行し、発表を行うまでのワークショップを行った。またその過程で、企業や市関係各課との連携も模索しながら、企業内における行動変容や市の施策に活かす取り組みを実施した。

また、女性が身の回りで感じている地域課題について、自分たちで解決を目指すグループの活動に対し支援を行った。

連携団体

山形市男女共同参画審議会（山形大学、山形県弁護士会、山形新聞社、山形商工会議所、連合山形地域協議会、山形市PTA連合会、山形市小学校長会、山形市中学校長会、山形市女性団体連絡協議会、男女共同参画センター利用団体、山形労働局、山形県福祉相談センター）

事業の効果

企業アンケートにより得たユニークな福祉厚生を学生に伝えたり、学生アンケートから得た学生の職業観を企業に伝えることにより、ミスマッチを解消する一助となった。また、自らの企画で自らイベントを実践することにより、行動力やコミュニケーション力などのスキルを身につけることができた。

さらに、課題解決に向けて踏み出した第一歩を市民向けに発表したことにより、新たな気付きが生まれ、参加女性全員が次年度に向け、課題に取り組むこととなった。

今後の課題

20代女性の県外流出は年々増加しており、20代男性もその傾向が見られる。地元の魅力、地元企業の魅力を知らない若年層が数多く存在すると思われることから、地元の魅力を中高生から伝えていく必要があると思われる。そのうえで、山形は女性が活躍できる場所が多く存在することをより多く発信する必要があると思われる。

公民連携による女性人材育成事業

まち、わたし、きらめくWomen's Campus 山形

【事業の背景・目的】

山形市で生活する女性が抱える悩みや課題を自ら解決することを目指す探求型プログラム。
地域で活躍する**女性リーダーの育成**と**若年女性の地元定着**を進めるとともに、市内企業による好事例の創出を目的とする。

令和6年度事業内容

5月	女性活躍推進トークイベント
6月 2月	ワークショップ（計8回） テーマ：「企業内における女性活躍の推進」「若年女性の地元定着」（特徴的な取組み） ・ビューティーセッション（資生堂ジャパン株式会社協賛） ・取組先進企業（東京）での研修 ・市関係部署との意見交換

11月～1月 Action Day
課題解決のためのアクションイベントを企画・実施

令和4・5年度参加者による活動

これまで取り組んできたテーマに沿って、課題を改めて整理し、解決に向けた企画を実施

Women's Campus参加者と活動に興味のある市民等の交流会

○市の政策との結びつきを検討

○自主的な活動を支援



◀ 女性活躍推進
トークイベント

ワークショップ ▶



◀ Action

活動発表会 ▶

